

長谷川議員 要望項目一覧

平成29年度6月補正分

要望項目	左 に対する 対応方針等
<p>1 新美術館のあり方について</p> <p>県民参画で決定した新美術館は現博物館とのすみ分けを図り、開館までのスケジュールを明示されたい。また、新美術館のあり方について、計画策定の各ステージで、県民から直接意見を求める場をつくられたい。</p>	<p>美術館の整備については、この3月に策定した美術館整備基本構想及び2月県議会での議論や附帯意見を踏まえ適切に対応していく。概ねのスケジュールについては、下記のとおりであるが、今後基本計画等の検討を進めていくなかでより具体的にしていく。県民からの意見を伺うための仕組みを本年度予算にも盛り込んでおり、標榜している県民立美術館となるよう取り組んでいく。</p> <p>《参考：今後のスケジュール（想定）》</p> <p>平成29年度 基本計画の策定及びPFI手法導入可能性調査 平成30～31年度 PFI民間事業者の募集・決定 平成31～32年 事業者による基本設計・実施設計 平成33～35年度 PFI民間事業者による建設工事（乾燥期間を含む。） 平成36年度 開館（予定）</p>
<p>2 県企業局のPFI検討のあり方について</p> <p>今年度、県営発電施設の改修・管理運営において、PFI手法検討調査及び導入可能性調査が実施され、特に、運営権を民間事業者に設定するコンセッション方式が検討される方針となっている。</p> <p>しかし、発電施設の所有権はあくまで県にあり、電力の安定供給における水力発電の役割や災害時の対応等に鑑み、メリット・デメリットの両面を吟味し、慎重に検討されたい。</p>	<p>県営発電所のPFI手法の導入検討に当たっては、専門的な外部アドバイザーの意見を活用しつつ、VFM*や運営権対価など定量面に加え、災害時の対応等リスク分担や水力発電の役割等県の関与の必要性、地域への経済波及効果、電力の地産地消、地元事業者の参画等の地域貢献といった定性面も含め、メリットや課題等を総合的に検証しながら慎重に検討を進めていきたい。</p> <p><small>※VFM (Value For Money) : PFI事業の概念の1つで、従来の方式に比べてPFI方式により総事業費がどれだけ削減できるかを示す割合。</small></p>
<p>3 木製バイオマス発電の推進について</p> <p>木くずや選定枝などの木製チップ等により熱供給する、バイオマス活用によるエネルギーの地産地消の推進に向けて、設備導入の支援や試験研究等に加えて、実現可能性調査を積極的に支援する等、事業の強化を図られたい。</p>	<p>木質バイオマスの利活用に向けた試験研究、実現可能性調査や設備導入等の取組については、すでに支援措置を講じており、今後も引き続き市町村や事業者等と連携しながら、これらの取組を推進していく。</p>
<p>4 部落差別解消に向けた取組について</p> <p>昨年制定された部落差別解消推進法を実効あるものとするため、人権文化センター及び隣保館等の事業について、一層の充実に努められたい。</p>	<p>従来から、鳥取県人権文化センターでは、同和問題を含む人権問題についての学習資料の作成、人権研修指導者の養成等の取組を行っているが、現在、県も支援しながら、6月上旬の完成を目途に学習資料（差別事例集）を作成中であり、完成後は、各種研修の場などで活用して、県民の部落差別に対する理解を深めていくこととしている。</p> <p>また、隣保館等事業に関しては、従来の財政的支援に加え、平成29年度から鳥取県同和対策協議会を拡充して当事者団体や隣保館の代表、弁護士、県教育委員会からも新たに参加いただき、県内各機関・団体の取組や課題を共有するとともに、差別解消に向けた具体的事業、役割分担について協議を行っている（5月29日に総会開催）。</p>

要望項目	左に対する対応方針等
<p>5 関金温泉開湯1300年祭及び大山開山1300年祭について</p> <p>本年は、関金温泉開湯1300年祭の節目の年であり、明年の大山開山1300年へとつなげる重要なステップである。三徳山・東大山から大山寺への古道活用トレイルルートの整備や、関金でのミニたたらワークショップ事業等が計画されているが、これらの着実な推進とともに、県全体の機運の醸成及び観光誘客活動に取り組まれない。</p>	<p>関金温泉開湯1300年祭については、倉吉市が設置した実行委員会に5月から中部総合事務所がオブザーバーとして参画し、磨き上げを計画されている関金御幸行列をはじめ地域で計画されている事業に助言する他、県内外やインバウンドに向けた情報発信や誘客の取組に、地震被害からの復興の観点も加えて協力することとしている。</p> <p>また、伯耆国「大山開山1300年祭」の事業の中でも、今年度から古道をトレイルルートとしてイベントで活用する等の取組も計画しており、そうした活動を通じて両1300年祭の機運情勢や情報発信を行うとともに、軌を一にしてJRグループと連携実施する「山陰グスティネーションキャンペーン」（平成29年度～31年度）において、県内市町村と連携した魅力ある旅行商品造成や全国規模でのPRなど、好機を生かした観光誘客に取り組んでいく。</p> <p>大山開山1300年祭のメインイベントの一つである、5つの古道を活用した「ホーリー（聖なる）・トレイル」ルートの一つとして、今年度当初予算及び平成28年度繰越予算により、案内看板のリニューアルや川床橋、大山滝展望台の改修等、三徳山から大山のトレイルルート整備を進めている。</p>
<p>6 倉吉自転車競技場への東京オリ・パラキャンプ誘致に向けて</p> <p>大山の東山麓に当たる倉吉自転車競技場に、東京2020オリンピック・パラリンピックの事前トレーニングキャンプの実現を目指して、さらなる誘致活動の強化に取り組まれない。</p>	<p>4月17日から20日にかけてフランス自転車競技連盟幹部のヴァンソン・ジャケ氏を本県に招き、倉吉自転車競技場ほか県内の練習候補地等を視察していただいたところである。</p> <p>同氏からは、豊かな自然や静粛さなど、競技に専念できる環境について評価を得た。</p> <p>今後、倉吉市の理解も得ながら、誘致に必要な条件（新たに整備が必要なBMX（バイシクルモトクロス）、マウンテンバイクのコース案等）の提示など交渉を進め、事前キャンプ誘致の実現に向けて引き続き働きかけていく。</p>